

平成24年度第1回 苫小牧市文化財保護審議会 会議概要

日 時：平成25年3月19日(火)

13:30～15:00

会 場：市役所第2庁舎1階会議室

出席委員 山本委員(会長)、石川委員、栗井委員、蓼沼委員、谷口委員、綱島委員、
林委員、日浦委員、吉谷委員 計9名

欠席委員 村井委員 1名

教育委員会 スポーツ生涯学習部 木戸次長
文化振興課 千葉主事、西川主事

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 平成24年度文化財保護関連の報告

(教育委員会から報告)

<主な質疑>

委 員：「苫小牧再発見!!」(過去に市広報掲載に掲載された記事)の冊子化について、
掲載内容が広報発行当時と現状とで違ってきているため、当時のまま掲載し
ている旨記載すべきではないか。

教育委員会：校正段階なので、前提としている旨掲載します。

※「苫小牧再発見!!」は3月中に2000部作成し、平成25年配布の予定。

委 員：すでに発行している「とまこまいの文化財」について、北海道大学苫小牧研
究林の森林記念館(10ページ)は概要の最後に公開されていないと記載され
ているが、現在は公開されているため、今後変更を検討してほしい。

※国登録有形文化財「北海道大学苫小牧研究林森林記念館」は、平成23年に
改修工事が行われ、森林資料館とともに、夏期間中一般公開されている。

(2) 平成25年度文化財保護関連の予算について

(教育委員会から説明)

<主な質疑>

委 員：委員の改選期ではない年度は3月に1回のみ審議会を行っているが、3月に
審議したのでは予算・決算関係の審議のみで終わってしまう。審議するもの

があるかどうか、また、審議委員の研修等も含めて、最低年2回審議委員会を開催してはどうか。

会長：つまり内容を濃くしてはどうかということによろしいか。予算の関係もあるが、教育委員会に今後検討をお願いする。

委員：お金をかけないで学芸員等の内部講師でも良い。勉強する形の審議会にしなければ、予算等の数字を見て終わってしまうという可能性もあると思う。

委員：文化芸術振興計画施策推進事業の「文化財発見ツアー」は今年度平日に行って人数が少なく、次年度は休日開催とのことだが、内容として人が来てもらえるのか。進行形の文化については内容に含めないものなのか。例えば、現在進行形で進行している苦小牧の芸術、今後文化財となるかもしれないものも取り入れて、新しい参加者を開拓することを考えられるかと思う。

教育委員会：まず、現在のものを文化財というのかどうか。一般的に文化財といったものが例えば江戸期以前のものだと考えるのかというのが一つ。文化財だけではなく、文化芸術に幅を広げてということも考えられる。

会長：夏休みの開催で子どもが参加できるものをしてよいのではないかと思う。内容については、市の指定文化財、国、道の文化財を理解するのが第一の目的ではないかと思う。色々な種類がある中で、片一方は行うけど片一方は行わない民間団体についてはある意味慎重に取り扱っていかなければならないかと思うが、教育委員会で判断をお願いしたい。

委員：この審議委員会は制度上必要だと定められているのか。

教育委員会：苦小牧市文化財保護条例という市議会で議決したものに、審議委員会をおくことが定められている。それに基づいて、本審議会を行っている。

4 「苦小牧市指定文化財について」

(山本会長よりお話し)

<主な内容>

- ・苦小牧市指定文化財について
- ・苦小牧の津波の予測図と文化財について

<主な質問等>

委員：王子の赤レンガ事務所等を活用する等の動きはあるか。

会長：所有者の意向を無視して行うことはできないが、教育委員会でも以前に話をしている、今まで話の経緯を聞いてきた中では活用する意向がない旨伺っている。今後の問題点として、未指定でも市として文化財に指定すべきものがあれば審議会の場合でも話しあいをして、教育委員会でも話あってもらって、もし文化財に登録する等の話がでてきたら審議となる。

委員：世界遺産の登録の話がでてきている千歳のキウスの遺跡は、静川遺跡と比べて整備が進んでいるのか。

委員：整備自体は駐車場はあるが、フットパスなどはまだない状態である。
委員：静川遺跡の環壕の発見が大事なものであると理解している人が少ない、教育委員会では積極的にPRして欲しい。

5 閉会